



第22号  
2018年2月



◇新潟まち遺産の会会報 第22号  
2018年2月14日発行  
◇新潟まち遺産の会 (代表 大倉 宏)  
〒951-8066  
新潟市中央区東堀前通1番町353  
E-mail: chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp  
TEL 025-228-2536 / FAX 025-228-2537  
ブログ: machi-isan.blog.jp

## 東海道に残る街道町、有松で町並み保存の大会

2017年11月17日から19日まで、有松で全国町並みゼミが開催され、代表の大倉が参加しました。その報告です。

□ □ □

全国町並みゼミ名古屋・有松大会に参加してきました。3年前に佐賀県で開催された「鹿島・嬉野大会」に次ぐ2度目の参加でした。

町並みゼミは年に一度「全国町並み保存連盟」が、歴史的建造物や町並みの残る地域の団体等と共同で開催されます。今年で40回目となる歴史ある催しですが、その第1回が、今回の一会場である同じ有松で開催されました。

町並みゼミの原点の一つとなった町を、3日間の日程の最終日の午後(全体会の終わったあと)にゆっくり歩きました。

東海道の街道沿いに残る江戸時代の町が1キロ近くにわたって続きます。ここは「絞り」の産地として栄え、今も多くの町家はその絞りの染め物を製造し商う家とのこと。

クロネズミモチという美しい大木が庭に残る服部家は、敷地が2000坪もある大きな屋敷ですが、それに匹敵する大きな竹田家の邸内を、ゼミの全体会から



写真右 「文化のみち」にあるお屋敷、旧井元邸(現在は名古屋市が所有し「文化のみち榎木館」として一般公開)の庭と茶室。民間所有だった時代からの、西尾さんたちボランティアによる手入れで、荒れていた庭が甦ったとのこと。

写真左 有松の街並み。

戻って来られたばかりのご主人のご厚意で、見学できました。邸内に展示された絞りの打ち掛けや、座敷も魅力的でしたが、奥に作られた茶室「栽松庵」が強く印象に残りました。

有松は昨年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。名古屋市の教育委員会が長く消極的で、今の河村市長の代になって、ようやくことが動き、選定に至ったそうです。

名古屋の都市部は東京、大阪と並ぶ大都会で、戦後の復興で道路も拡幅され、古い町は消えてしまったように見えていましたが、以前駅前をぶらついて、古い町屋や寺がぼつぼつ残っているのに気づいたことがありました。

\* \* \*

2日目は繁華な都市部にほど近い、名古屋城と徳川美術館の間にある「文化のみち」と名付けられた一角を歩き、午後は名古屋藩主の菩提寺である建中寺での「歴史的資産のネットワーク」という分科会に参加して、新潟の西大畑旭町かいわいの文化施設が作る「異人池の会(西大畑旭町文化施設協議会)」の活動の報



告をさせていただきました。

文化の道は現在住宅地ですが、古いカトリック教会や戦前の邸宅が残され、そのいくつかは（次頁へ続く）名古屋市が所有し、一般公開されています。そういう点で新潟市の西大畑周辺によく似ています。

地域のガイドをされている伊藤さん、湘南での邸園（邸宅と庭園）の公開に関わり、小田原でまちあるきガイド活動の運営にも関わる内藤さんと私がパネリスト、あるお屋敷の保存に関わり、「文化のみち」かいわいについて本を書かれた西尾さんがコメントーター。司会が当会副代表で連盟理事の岡崎篤行という顔ぶれでした。

「文化のみち」を名古屋市はもっと観光化したいという意向があるようですが、住宅地であるため、外から人が多く集まると住民から苦情が寄せられることもあるそうです。名古屋城や徳川美術館という、集客力のある施設との関係性も議論のテーマとなりました。

内藤さんからは、ガイドする場合は名古屋城もお屋敷も同等のレベルで（名古屋城に見所が満載だからといって、説明しすぎず）ガイドするとよいとのアドバイスがありました。小田原ではガイドの立場から、さまざまなスポットに案内板の設置を行政の各部署に依頼して実現したそうです。新潟もそういう案内板が、

もっと増えるとよいと思いました。

いろいろと示唆に富むお話が聞けましたが、私自身は名古屋でのこうした町歩きは初めてで、あまり適切な発言もできず、残念でした。その後懇親会場まで西尾さんとゆっくり歩いてお話を伺えたのが、よい収穫でした。

最終日午前の全体会では、各分科会で話し合われた内容を、聞いていた学生たちが、徹夜でパワーポイントにまとめあげて報告してくれました。学生たちには、忘れがたい体験になるとともに、他の分科会の雰囲気も各参加者が共有でき、いつから考え出されたのかは知りませんが、素敵なシステムだと感心しました（「鹿島・嬉野大会」では最後の全体会を見なかったので、今回は初体験）。

新潟で町並みゼミがいつか開けるとしたら、町歩きは、全体会は、分科会は…コースや会場などを自然に夢想しながら、帰途に着きました。空港を下りたとたんに、湿り気のある空気に「帰ってきた」ことを実感。

来年は同じ町並みゼミの北信越ブロック大会が6月に上越市で、全国町並みゼミが長野県の松代で開催されます。

当会会員のみなさんも、ご一緒に参加しませんか。楽しいですよ。（大倉）

## 歴史的建造物保全と法律を考えるセミナーを開催

6月10日、「まち遺産セミナー2017 歴史的建造物を活かす新しい動き」と題して講演会を開催しました。会場は、古町の旧料亭、有明を特別にお借りしました。参加者は37名でした。また新潟日報の記者が取材に訪れ、翌日の朝刊に記事が掲載されました。

□ □ □

「歴史的建造物を活かす新しい動き」というテーマで、工学院大学の後藤治先生のお話をお聞きしました。内容としては、現代の法規に合わない歴史的建造物をどのようにして保全していくかというものでした。

その方法として、自治体が独自の方法で、建築基準法の適用除外を行うことができる「その他条例」の導入事例や、安全面の規制は最小限に留めている海外の事例、ソフトの対応により安全性の確保を行なっている事例などが挙げられていました。

一方で、保全を推進する側においても、改造を受け入れる姿勢を持つことが必要であるとして、歴史的建造物における性能確保の海外事例や、保存活用計画を策定し保全箇所を優先順位をつけている海外事例が紹介されていました。

今回の内容を通して、歴史的建造物の保全と安全性の確保は、どちらか一方の立場で語るのではなく、双方の立場を理解した上で議論されていく必要があるように感じました。

私の所属する研究室では、歴史的建造物の保全をテーマにしています。そのため、私には歴史的建造物

の保全制度を良とし、それに反する制度を悪とする思いが少なからずありました。しかし、反対の立場を無視した状態では、一方的な意見しか述べることができず、結局のところ、具体的な解決策は述べることでできない結果になると思いました。

後藤先生のお話では、双方の立場を考慮した上で歴史的建造物の保全が考えられていて、具体的な解決策や、折衷案が示されていました。今後、歴史的建造物の保全に関する問題に向き合う際には、広い視野を持って考えていきたいと思いました。（花田脩之・新潟大学都市計画研究室修士2年）



旧有明2階広間で行なわれたセミナーの様子。

## まちなみネットワーク相川大会に参加

2017年5月27日(土)、28日(日)の両日、佐渡の相川で第12回新潟県まちなみネットワーク相川大会が開催されました。まちなみネットワークは、ふだん顔を合わせる事のない県内のまちづくり団体の交流や情報交換の場を作ろうと、2006(平成18)年に設立されました。高田大会を皮切りに、地元の団体の主催で撰田屋、新潟、小木・宿根木、糸魚川、出雲崎、村上など、上越、中越、下越、佐渡と持ち回りで大会を開いています。

大会ではもちろんまちあるきが恒例ですが、これは毎回たいへん中身の濃いもので、ふだんは見られないような場所を案内してもらえますし、なかなか聞けない話が聞けたりもします。

そのほか参加団体の活動報告や交流会があり、10年以上続けるうちに、会員同士の交流も積み重なって、お互いに皆がどういう活動をしているかもなんとなく分かるようになりました。

前回から新潟県主催の「にいがた美しいまちなみフォーラム」が同時開催されるようになりました。今回は「コミュニティデザイン～人をつなぎ地域をつくる～」と題して、山崎亮氏の基調講演と、山崎氏ほか佐渡の相川京町、西三河笹川、そして上越桑取周辺でまちづくり活動を行なっている3団体の代表などによ



写真上 まちあるきの様子。

写真右 北沢選鉱場跡。



るパネルディスカッションがありました。

山崎氏は全国各地で市民参加型のワークショップなど、コミュニティ・デザインに関わる多彩な活動を展開しておられ、その経験をユーモアたっぷりに語ってくださいました。

□ □ □

27日のまちあるきは金山の古道を案内されました。ミニバン2台で金山第三駐車場まで行き、そこからいきなり草に埋もれた急な坂道へ。のびきった草木を伐採して、道は人が通れるように整備されていますが、なお生い茂る草木の間からのぞく朽ちた石段や崩れた石組みが、江戸時代の鉱山町の繁栄をしのばせていました。

案内していただいた一带は、周辺の車の行き交う道路からは隔離された、別の時間が流れている(というより、止まったままの)空間とも言えるような場所でしたが、圧巻はコース最後に立ち寄った北沢選鉱場跡でした。かつては東洋一と言われた金銀の抽出施設ですが、屋根も壁もなくなり、コンクリートの構造体だけが残って、それを草木が覆い尽くそうとしていました。階段状の建物跡や円形の施設は、まるで古代ローマの遺跡のようでした。

金山の施設として注目されるまでは放置され、広いのでゴルフの打ち放しに使っていたこともあったといいますが、驚きます。驚嘆する一方で、このまま置いておくと崩壊が進むのは明らかで、どのように保存するのだろうかと考えさせられる遺跡でもありました。

相川京町の街並みも歴史を感じさせて魅力的でしたが、この機会にはじめて歩いた古道が強く印象に残りました。(千早)

## 城下町じゃないのに天守閣？ —増える奇抜な建築デザインを考える

12月25日(月)に新潟大学で、近年各地で見られる建築のデザインに見られる問題をテーマにした特別講義が開催され、当会は共催の形で協力しました。講師は京都繊維工芸大学教授で、建築史、近代都市史がご専門の中川理先生です。

近年、建築物のデザインには、地域の歴史を顧みずに一方的に構築された物語の世界を展開するものが見られます。城下町ではない町に建てられた天守閣のような建物や、動物など奇抜なデザインの公共建築。中川先生はそれをディズニールンダイゼイション(ディズニールン化)と命名し、建築史や哲学など多角的な知見から考察を加えてこられました。今回の講義で

は、新潟大学都市計画研究室の学生による各地の事例紹介と、中川先生の講義がありました。

講義はこうした建物デザインの批判ではなく、歴史的なスパンで眺めると、日本独自の現象ではなく、19世紀のイギリスの住宅地開発で早くも見られ、アメリカやドイツにも見られる世界的な現象だということを示し、その意味をさぐるようとするものでした。またその対極として、既存の建物をリノベーションによって甦らせる事例が紹介されましたが、そこではデザイナーは徹底的に地元の人の話を聞き、将来建物が用途を変えても持続的に利用できるような改修を行なうというお話が印象に残りました。(千早)

## 「ふるまち新潟をどり」と鑑賞講座

9月24日の日曜日、毎年恒例となっている古町芸妓総出演の日本舞踊公演「ふるまち新潟をどり」が開催されました。新潟をどりは昭和57(1982)年に第一回が開催されてからほぼ毎年開催されており、今年は記念すべき30回目に王手をかける29回目の年でした。

当会では、9月1日・8日(金)に、ふるまち新潟をどりの予習講座「初心者のためのふるまち新潟をどり鑑賞講座」を、砂丘館、古町花街の会と共催しました。今年の参加者は新潟をどりのチケットを買われた方が大半であり、講座の趣旨にかなったものでした。

公演当日は、開場から開演までの間、劇場ホワイエ前に江戸千家による呈茶席が設けられ、やや慌ただしくも「開演前の一服」を楽しまれている方が多くいらっしゃいました。

また、新潟をどりをより盛り上げようと、ホワイエ内に柳都さん等のグッズ販売所や芸者衆の提灯も設置され、終演後には記念にグッズを買おうとする人、提灯を写真に収めようと位置取りをする人等が販売所回りに集まり、グッズ係は想定以上の好評に満足と疲弊の色濃い様子でした。

呈茶は2年前から、グッズ販売所や芸者衆の提灯掲出は昨年から、古町花街の会や新潟三業協同組合により始められた試みですが、「をどり」に少しずつ定着しつつあることが感じられました。(久保)



銅茶屋で行なわれた鑑賞講座の様子。

□□□□□□□ 編集後記 □□□□□□□

本町通10番町にあった「旧健生薬局」の建物が年明け早々に解体されました。年末に気づいたときには足場が組まれ解体準備に入っていました。昭和初期に建てられた、新潟市でも古い鉄筋コンクリートの建築でした。

周囲は駐車場になっていましたが、この辺りのランドマークともいえる建物でした。人様の建物のことをあれこれ言う権利はありませんが、この前を通るたびに、空き家にしておくのはもったいない、レストランでも物販でもやりたがる人がいるだろうに、と思わずにはいられなかったのですが、土地の歴史を物語る貴重な財産がまた一つ失われました。(千早)

## 白山界限で建物巡りのまちあるき

秋たけなわの9月30日(土)、「白山界限の建築を巡るまちあるき」を開催しました。特定非営利活動法人まちづくり学校との共催で、プラニイガタ番外編と銘打って行なったものです。

白山神社の周辺は、白山公園、いくつもの劇場、体育館と、造られた時代の違う文化施設が集まっています。新潟市民芸術文化会館・通称りゅーとびあ(平成10年開館)の建築と、白山公園と周辺地区の整備が一体で進められたとき、設計者のアイデアで、空中歩廊で各劇場から信濃川までがつなげられました。

まちあるきでは、りゅーとびあの屋上を一周して高所から周囲を見渡し、建物から空中歩道に出ていったりもして、建物の内部と連続した有機的な拡がり強く体感できました。

今回のまちあるきは、この空間の歴史的な重層性や多様性を建物を通してじっくり味わうものでした。近代建築の奥深さ、豊かさを垣間見、建物の思いがけない来歴やふだんは気づかない表情に心躍るまちあるきとなりました。

りゅーとびあ以外の建物を古い順に紹介します。

白山神社内にありながらほとんど人が行かない校倉造りの「御稲御倉(みしねのみくら)」、これは昭和28年に伊勢神宮で建立され、昭和49年に当地に移したものです。

白山公園は明治5年に造園が始まった、日本で最も古い近代公園です。開港と新潟の近代化を象徴する公園でした。

県政記念館(明治16年築、大規模解体修理後昭和50年から公開)では、あの、目を引く塔屋に上ることができました。

燕喜館(明治40年代築の建物の一部を平成に移築)は茶会が催されていたので建物内には入れず、路地庭を巡りました。

体育館(昭和35年築)は当初はホールを兼ねており、ここでキャンディーズのコンサートを見たという思い出話も飛び出しました。また、新潟地震で入った壁の亀裂や床のゆがみが今も見られます。

県民会館(昭和42年築)は、壁や扉に施されたパブリックアートに改めて目が行きました。

音楽文化会館(昭和52年築)は、2階で空中歩道と接続するための出入り口が後から造られたということです。私たちはそこから中に入りました。

遊神亭は燕喜館の移築の際に造られた新しい茶亭で、りゅーとびあと共に平成の建築です。

途中白山公園を歩いている頃に雨が降り出し一時は豪雨となりましたが、県政記念館を見学しながらやり過ごすことができ、何事もなく終了しました。

参加者は12名、スタッフ5名と併せて17名でのまちあるきでした。(千早)

